

こども食堂への思い

こども食堂では、無料もしくは安価で食事が提供されています。食材を提供してくれる人や運営を手伝う人などさまざまな人の支援で成り立つ世界です。運営者たちがなぜこども食堂の立ち上げを決意し、どんな想いで日々活動をしているのか、2カ所のこども食堂の担い手にインタビューしました。

私は、子どもたちにとって安心できる「第三の居場所」、まるで「屋根のある公園」のような場所にしたいと考えています。水害後に不登校になっってしまった子や、夜食用におにぎりを持って帰る子ども食堂に来る子どもはさまざま。そうめんの出汁だけを飲む子や、茶碗のご飯しか食べない子など、一人一人の食の好みにも柔軟に対応することで、多様なニーズに応えられるよう努めています。

こども食堂には、地域住民の理解と協力は不可欠。一人の子どもに関わる大人が増えるほど、子どもたちにとって良い環境が育まれると信じて

います。例えば、地元の新聞に載ることで、「載ったね」と地域の人から声をかけられ、それが子どもたちの自信につながる。そのように子どもたちが「社会的に認められる」という喜びを実感できる機会を増やしたいです。

災害時には食料供給拠点としての重要な役割も担っています。「こども食堂の料理なら喉を通った」という声もあり、地域共助と防災の要のような機能がある場所だと思っています。子どもたちが自由に過ごし、不登校の子ともや子育てに悩む親などが気軽に相談できる場所を提供していきたいです。



◀ひだまりでは、学校終わりに食堂めがけて子どもが訪れる



▶みんなの森では、カレーを提供。スタッフ分が無くなる日も

子どもの居場所 ひだまり
おしゃべり食堂

代表 松田 亜希子さん

こども食堂は、地域で支える
「第三の居場所」



地域の縁がわ みんなの森

代表 吉田 和子さん⑥

副代表 千原 紀子さん⑥

子どもからお年寄りまで
みんなが利用できて笑顔になる場所



「学校に行けない子がいたら学校に行けるまで、関わりたい」。こども食堂を始めたのは、不登校の子どもを支援したいという願いが原点でした。昨年、こども食堂を開設。運営資金は新聞で作ったエコバッグを、3枚百円で販売した売り上げ金ですが、これだけでは運営できません。フードバンクや地元の企業、農家さんからの食材や行政からの金銭的支援などで成り立っています。

世間一般ではこども食堂に対して「貧困」のイメージが強く、「必要なの？」という否定的な声も多いです。しかし、高齢者が年金だけで暮ら

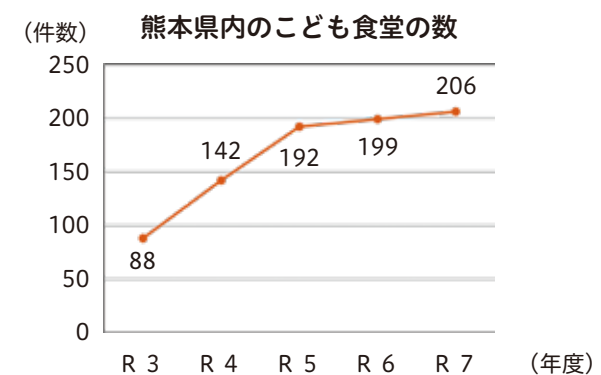
していくことが難しい現代では、200円で食事ができる場は大変喜ばれていて、子どもから大人まで利用できる「地域の食堂」としての役割も大きいと感じています。うれしいことに毎回、用意した食事はほとんど無くなるほど好評。地域のために役立っているという実感を感じています。「おいしいね」という会話が仲良くなることも大切です。家族そろって食事ができない家庭も多い中で、年齢や知らない人同士が話しながら食事をする場は貴重です。これからも、誰もが気軽に来れるような居場所づくりに努めていきます。

特集

こども食堂ってなあに？

「こども食堂」は地域の子どもたちだけでなく、みんなが集える温かい食卓。この特集では、こども食堂がどんな場所なのか、主催者やスタッフなどの想いを交えながらご紹介します。友達と遊んだり、時には地域の人とおしゃべりを楽しんだり……。こども食堂は、子どもたちの成長を地域全体で支える大切な拠点です。

問合せ 市こども未来課子育て応援係（☎22-2111 内線1221）



人吉市内のこども食堂

13カ所



県内の食堂数は
4年で約2.3倍増

こども食堂は、八百屋を営む店主が貧困や親の多忙からご飯を満足に食べていない子どもに食事を提供したことが始まりといわれています。その後、全国で急速に広がり、令和6年度には1万カ所を超え、公立中学校数を上回る規模に。県内でも令和3年の88カ所から、令和7年（3月時点）には約2.3倍の206カ所に到達。市内にも13カ所のこども食堂があります。

「地域の居場所」の役割へ

こども食堂は「貧困対策」としての側面から、「誰もが気軽に集える地域の居場所」へと変わりつつあります。食事提供に加えて、多世代交流、学習支援など幅広い役割を担うようになっていきます。一方で、運営資金やボランティア不足、支援対象者へのアプローチ不足といった課題も。これらの課題に対し、行政や企業、地域住民が一体となり、持続的な運営ができるよう、さまざまな取り組みが続けられています。